



努力と感謝の先に

長かった夏休みが終わり、心も体も一回り大きくなった子どもたちが戻ってきました。今年の夏休みは昨年度と同じようにコロナ禍で自粛ばかりでしたし、大雨が続く災害が起きるなど重苦しい日々でしたが、やはり子どもたちの声が聞こえるというのはいいもので、学校が活着ている感じがします。

今日から二学期のスタートです。体育参観や図工展、更に各学年においても様々な行事が計画されており、子ども達の活躍の場が沢山あります。しかし、緊急事態宣言が発令され、デルタ株の拡大もあるので、感染防止のため計画が変更や中止になることが予想されます。そんなたくさんの制限の中ではありますが、感染防止対策を行いながら今できることは何かを考え教育活動を進めてまいります。ご家庭でも感染予防に努めていただくとともに教育活動へのご理解ご協力をよろしくお願いします。

さて、この夏は東京オリンピックが行われました。子どもたちにも一学期の終業式で「オリンピックなど物ごとを成し遂げる人は『努力・前向き・礼儀・感謝・誠実』を実行する人である、テレビで観戦してみよう。」と話しましたが、皆さんの中にも観戦された方がたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。

「賛否両論あることは理解しています。ですが、我々アスリートの姿を見て、何か心が動く瞬間があれば、本当に光栄に思います。」と柔道男子73キロ級金メダリストの大野将平選手が話していましたが、私は心を動かされた一人です。リオ五輪に続き2大会連続の金メダリストですが、謙虚で自分に厳しい人です。大野選手の試合での立ち居振る舞い（挨拶・礼儀・相手への敬意など）・柔道への想い・自分と向き合う姿・周りの方々への感謝の気持ちに大きな感動と学ぶことがたくさんありました。

「自分の中で本当に悲観的な思いがなくて、不安でいっぱい、昨年から過ごしていた。この一日で報われたとは思っていませんし、まだ私の柔道人生は続いていくので、今後もやはり自分を倒す稽古を継続してやっていきたい」というコメントが印象に残りました。コロナ禍で1年延期になった中でオリンピックに向けて前向きに頑張り続けることは想像を絶する精神力が必要だったことでしょう。そして、それを乗り越えるために誠実に柔道と自分に向き合い努力を重ねてきたこと・栄光の先にも続く人生に更なる努力を継続していく決意が伝わってきました。きっと、全てのアスリートがたくさんの壁にぶつかり、悩み考え、そして周りの人の支えに感謝しながら努力を重ねて乗り越えてきたのでしょう。だから、スポーツをしている姿は美しく輝き、観ている人に感動と勇気を与えることができるのだと思います。子どもたちにはたくさんの学びの中で夢に向かって前向きに誠実に努力して欲しいと願っています。いよいよ東京パラリンピックも開幕しました。引き続きテレビで応援して、大きな感動を味わい、たくさんの方を学びたいです。